

いただいたご意見

基本計画の施策の内容について、付加していただきたいこと、もう少し具体化した内容が必要ではないかと考える以下の3点について、意見を申し上げます。

- ・外国人実習生との交流事業の推進（多文化共生の地域づくり） 余市町内においても、外国人技能実習生が多数存在し、農業・水産加工業・漁業・介護など労働力不足の業種を中心に働いていますが、地域との交流がほとんどない状態にあります。町が主催して、町民と技能実習生との交流事業を実施することにより、多文化共生の地域づくりを進めることが重要です。これらの業種では、今後も労働力不足は深刻化すると予想され、労働力を確保するためにも地域ぐるみの実習生受け入れ態勢をつくり、実習先としての余市町の魅力を作り出す必要があります。
- ・木質バイオマスによる熱・電気利用の推進（エネルギーの地産地消） 地球温暖化防止・化石燃料依存からの脱却は喫緊の課題です。余市町は総面積の70%弱が森林で、木質バイオマス・コージェネ・システムの導入による熱利用・発電を進める有利な環境を有しています。主要産業である果樹栽培から出る剪定枝もその原材料として有効利用が可能です。熱利用は公共施設や集合住宅の暖房・給湯のほか、温泉施設や冬場のビニールハウスの加温にも活用できます。化石燃料と違って森林は再生可能な資源であり、その活用は林業の再生につながります。また、エネルギーの地産地消で町内でお金が回り、雇用の創出にもつながります。
- ・ローカルベンチャースクールで地域発の起業支援 果物・ワイン・水産物・海・畑・・・余市町は豊かな地域資源に恵まれています。新規就農、ワイナリーの開業、商店街への出店などが少なくありません。しかしながら、そのポテンシャルを十二分に活かしているとは言えません。若者の間で地方で起業を目指す志向が強まっていますが、余市町を素通りして、ニセコなどリゾート地に逃がしているケースも見られます。ローカルベンチャースクールを立ち上げ、町内外から新しい事業に取り組みたいという意欲ある人材を募集し、起業家育成を進めると同時に、支援メニューを用意して事業の自立への支援も進めていくことが必要です。商店街のシャッター店舗の有効活用、流動化を図り、新しい出店による活性化で地域に新しい経済を生み出すことも可能です。

ご意見に対する余市町の考え方 ※別表区分C

第5次余市町総合計画は、長期的なまちづくりのビジョンを示すものとして策定を進め、基本構想については「まちづくりを進めるうえでの最上位の概念」、基本計画については「各分野の行政施策の方針を示すもの」としています。今回ご提出いただきましたご意見につきましては、毎年度の各施策の実行や見直しの際に検討材料とさせていただきますと考えます。

参考

区分	意見等の反映状況
A	ご意見等を受けて計画等の案を修正したもの
B	計画等の案とご意見等の趣旨が同様であるもの
C	計画等の案を修正していないが、今後の施策の進め方等の参考とするもの
D	計画等の案の運用にあたって参考となる情報提供
E	計画等の案に対するご質問等